



大和田 建樹氏は、

一八五七年、愛媛県宇和島市に生まれ、国文学者で詩人でもある。東大などで教鞭を執った。「鉄道唱歌」「故郷の空」「青葉の笛」「海軍軍歌」など明治時代を中心に活躍された方である。

一 江戸時代の初め(千六百六十一年)のこの地に住む人々を救おうと、**自分たちの命とひきかえに立ち上がった五人の庄屋がいた。**

二 **夏梅村、清宗村、菅村、高田村、今竹村の五つの村の庄屋たちは、水道工事の請願書(工事)をさせてほしいという願い(を藩)に提出した。**

三 「水をもし引いても来ないならば **五人全員、はりつけの刑罰を受けます**」と **強い決意**であった。

四 **五庄屋たちのまじりこむは 人々の心を動かして 水道工事の許しがでた村の入り口には 早々と仕置台が建てられ それを見て 工事に励まない人はいなかった。**

五 **矢よりも流れのはやいといわれる筑後川 激しく流れる波とたたかって 岩を切りさくよう な水をせき止めた。その困難や苦悩・心配は いったいどれほどだっただろう。**

六 **想像を絶するさまざまな困難や苦勞をのりこえて作った長野と大石の井堰に 命を救われた。その田の広さは 一千百余町(ヤブードームの約千五百四十二分)にもなった。**

七 **遠い昔からの願いだった偉大な工事ができたので 藩からたくさんのごほうびがでたが 五人の庄屋はみんな辞退して受けなかった。人々はその心になみだした。**

八 **私たちの村の尊い歴史は 永遠の名誉であり 枯れない花のようである。 五庄屋のたましいは永くにまつられて 私たちの幸せを守るだろう。**

